

第12号
発行
姉崎小学校区
小域福祉ネットワーク
会長 脇田 靖
編集：広報部会

お互い助け合う福祉を目指して

姉小学区福祉ネットワーク会長 脇田 靖

当姉小福祉ネットは姉崎小学校区を活動地域として、域内で福祉活動をする十六福祉団体と十四町会が参加し、域内の全住民を対象に福祉活動をしてまいりました。特に小学校低学年児童の登下校の安全確保や、高齢者に対して地域と密接なつながりを持ちながら生活できるよういろいろな手助けをしています。福祉活動は助ける側と助けられる側に分けて議論されることが多くありますが、私どもはそのような分け方はせず、誰でも助ける側になったり助けられる側になったりすることを前提に住民の皆様がお互いに助け合うことが出来る社会の実現を目指して活動しております。姉小学区福祉ネットワークの活動は地域にお住いの皆様を対象です。個人の視点からも、「お互いに助け合いを大切にする」意識が重要です。町会や福祉団体等に所属していなくても私たちの活動に共感して福祉活動に参加いただきたくお願いいたします。



サロン開設

1月20日新町の「だんわ室」でサロンを開設しました。「だんわ室」は、昨年元電気販売店の菅原さんが住民のたまり場にしたいとお店であった場所を改装したものです。

私たちの福祉活動の一つ、高齢者の引きこもりを 방지「健康寿命を延ばす」ということに役立つと考え利用させてもらうことにしました。当日は女性が19名、男性4名合計23名の方が参加されました。なるべく費用を掛けずにしようとして湯飲み茶わん・ポットなどはメンバーが持ち込みです。

1時30分から「マジック」を元町会長が2人の女性と日頃磨いた技を披露。時たま失敗するがこれも愛嬌で参加者は大変満足の様子でした。途中でお菓子、お茶、コーヒー、紅茶を提供し、ゆっくりくつろいでいただきました。続いて映画の鑑賞だ。映画館では私語は禁止だが、ここでは鑑賞中でも隣同士でお話をしてくださいとお願いし、見知らぬ人とのコミュニケーションを図りました。

参加された方からの声。久しぶりに映画を観た。接待に満足した。お友達ができた。次回も来たい。などなど。嬉しい限りのお声をいただきました。この催しは参加される皆さんが主役です。映画や公演等いろいろな出し物を考えていきます。



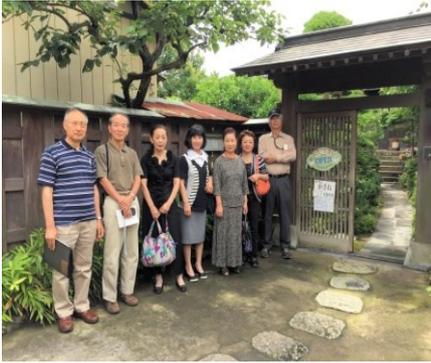
会場の都合で25名程度が限度ですが、多くの方に利用していただきたいと思っています。私たちスタッフも皆様の会話の中に入れていただき楽しい時間を過ごしたいと思います。今後も月1回（第3水曜日）開催予定。催し物は、本「きずな」と、また各町会にある「掲示板」にてお知らせします。

開催日予定；4月20日 ・ 5月18日 ・ 6月15日

時間は、午後1時から約2時間の予定です。会費はお茶・お菓子代として300円です。

応募方法はアネッサまで 0436-62-8601（担当 辻・穴澤）

認知症カフェ「かさね」を見学して 小沼 明



「市原に認知症カフェがあるらしいよ！」・・・そんな情報をもとに、高齢者部会で見学に行くことになりました。認知症の問題は高齢者部会の大きな課題でもあり、少しでも理解を深めたい！これが見学の理由です。7月7日（土）の猛暑日、脇田会長と高齢者部会7名が参加しました。

そのカフェは五井中学校近くの住宅地の一角にある。緑豊かな広い庭に囲まれた一見料亭風の佇まいである。そこに居るだけで心が休まるような憩いの空間である。早速、今日の当番担当の前原さんからこのカフェについて詳しい説明をいただきました。

2年前、認知症の方や介護する方、一般の方の交流の場としてできたという。開業は火、木、土の三日間。その運営はすべてボランティアの方々である。コーヒーのお茶だけでなく定食ランチも用意。食材のほとんどは庭の畑で採れた物や利用者が提供して下さった物。お年寄りに優しい献立や味付けが、このカフェの売り物だ。利用者は近くに住む方が多いらしいが、中には遠くから車で来られる方も結構おられるとか。食事をとりながらの世間話、ボランティアスタッフによる健康体操等は、認知症の予防に大変良いそうです。



定期的に専門家を囲んだ認知症についての研修も行っているという。説明をいただいた後は、ランチタイム。量は少なめだが、味は中々のもの。食事の後、利用者の方々と交流の時間を取っていただく。中には、「このカフェができてとても助かっていますよ。実は私の女房が重度の認知症で……皆さんと話しているともやもやしていた心が晴れるんです。」そんなご苦労されている方のお話もいただいた。利用者は、月平均200名～250名に上るそうだ。利用者やボランティアの方々の明るい笑顔に触れ、心地よい気持ちで帰路に向かった。

健康寿命を延ばそう



!! 歴史散歩 しましょう !!

椎津城 激動のドラマ①

1. 椎津城の由来

1325年ころ、千葉氏一族の椎津三郎が築城しましたが、その後武田氏の一族が椎津湊の警護（海上交通、漁業、物流、軍事）の拠点としてその権限を取り立てたといわれています。椎津川が江戸湾に流れ込む絶好な自然港湾、対岸の品川湊とともに軍事拠点として重要な城砦が椎津城であったのです。

2. 椎津城の概要

椎津城は、城山と言われる高台に設けられ、その中心部に本丸がありました。もともと古墳があり、そこを利用し本丸が発掘調査で判明しています。

伊東茂雄